最新セキュリティマネジメント（第30回）

サプライチェーンの一員としてのセキュリティ対策

2023.11.20

独立行政法人情報処理推進機構（以下：IPA）は2023年10月31日に「サイバーセキュリティ経営ガイドライン Ver 3.0実践のためのプラクティス集 第4版」を発行した。これは、2023年3月に経済産業省とともに発行した「サイバーセキュリティ経営ガイドラインVer3.0」の「重要10項目」の実践に必要な事例を掲載したものだ。改めて、サプライチェーンの一員としての中小企業のサイバーセキュリティ対策のあり方を考えてみたい。

サプライチェーン全体でのセキュリティが課題に

経済産業省とIPAが発行している「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」は、サイバーセキュリティという重要な経営課題に企業経営者がどう向き合うべきかをまとめたものだ。2023年3月に6年ぶりに改訂され、Ver3.0が発行された。

ガイドラインは「経営者が認識すべき3原則」「サイバーセキュリティ経営の重要10項目」を中心に構成され、管理体制やリスクの特定と対策の実装、インシデント発生に備えた体制、サプライチェーンセキュリティ対策の推進、ステークホルダーを含めた関係者とのコミュニケーションの推進など、広範囲にわたる取り組みが具体的に解説されている。

「サイバーセキュリティ経営ガイドライン Ver 3.0実践のためのプラクティス集」は、この取り組みを実践するために参考とすべき事例をまとめたものだ。中でも多くの中小企業に関係があるのは、サプライチェーンを構成する一員としてどのようなセキュリティ対策が求められるのかという点である。

経営者が認識すべき原則の1つにサプライチェーン全体への目配りを上げており、重要10項目でも「指示9：ビジネスパートナーや委託先等を含めたサプライチェーン全体の状況把握及び対策」を取り上げている。「サイバーセキュリティ経営ガイドライン Ver 3.0実践のためのプラクティス集」では、指示9について6ページにわたって解説されている。

サプライチェーンを守るため自社でするべき対策… 続きを読む